

要領様式第2号

出張報告届

2024年11月15日

吹田市議会議長様

会派名 市民と歩む議員の会

代表者氏名 梶川 文代

出張者氏名 五十川 有香

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出張先	あきた芸術劇場 ミルハス 〒010-0875 秋田県秋田市千秋明德町2-52
期間	2024年 10月31日 から 11月1日まで 2日間
出張の成果	別紙のとおり
備考	



2024/10/31 中核市サミット

目的：中核市は、平成8年に12市が移行して以来、地域の中核都市として、また市民にもっとも身近な基礎自治体として、地方分権の推進と地域の発展に大きな役割を果たしてきました。中核市制度発足から四半世紀を経て、全国の中核市は62市まで拡大し、その人口は約2,249万人となるなど、我が国における存在と責任はより一層高まっています。

近年は、人口減少・少子高齢化の著しい進行はもとより、世界的な異常気象やウクライナ情勢等による食料・エネルギー価格の高騰に起因する歴史的な物価高が市民生活に大きな影響を及ぼしており、社会の不確実性は今後ますます増大していくことが予想されます。

コロナ禍の下、各地でパンデミックを生き抜くための様々なイノベーションが生まれたように、世界はテクノロジーの創造や文化の力により、新たな「生きる力」を得ることで、幾多の困難を乗り越えてきました。地域の核となる中核市においては、将来にわたって持続可能なまちづくりに向けて、長く受け継がれてきた文化や歴史といった地域固有の資源に光を当て、まちの個性をつくり、これからを力強く生きていくことが求められています。

中核市サミット2024 in 秋田では、「再生可能エネルギーが創るまちの未来」と「芸術文化が創るまちの未来」について、中核市の市長が一堂に会して議論を深め、その方策を全国に発信することで、中核市が創る「ひと・まち・くらし」の未来へとつなげてまいります。

開催テーマ：「これからをつくる これからを生きる～中核市が創る『ひと・まち・くらし』の未来～」

基調講演：「洋上風力発電によるカーボンニュートラルと地域振興」

東京大学名誉教授の荒川忠一さん

◎はじめに、地域との共発展

現在日本では、秋田市を中心として風力発電の中核を担っている。

2000年から研究を始める。初めて見たのは、コペンハーゲンの洋上風力発電。とても素晴らしい景観であった。現在でもここは、「世界で最も美しいウィンドファーム」と言われている。20台のうち5台は市民が資金を提供した。すでに市民に関わることができる仕組みを実現している。

その他、オランダ・キンデルダイクの風車、東京風力発電所（2024年春に撤去）風車は約20年持ち等風力のある空間を紹介。

続いて、風車の影響を鑑みると、地域の景観や調和、人々との調和が必要。

風車の大型化（洋上風力）：この理由は、同じように容量を出すにも大型であれば台数が少なく済む。また、風の力が上空にいくにつれ、強くなる。

ただ、景観問題などの社会受容性が争点となる。

しかし、このままでは、IPCCが発表している観測より、地球温暖化の影響による被害大。

脱炭素社会への道りとして、風力発電は有力。

1997 年京都議定書

2015 年のパリ協定での 1.5 度に抑えるためには 2050 年に脱炭素化しなければならない。

2021 年第 6 次エネルギー基本計画

現在、第 7 次基本計画は協議・作成中

各国と比べて、日本の風力発電は、まだ、0.9%だが、20%ほどまで増やしていく必要がある。なぜなら、風力発電が一番、経済性がある（世界的に比率も高め）と言われている。

なお、風力発電機の価格も世界よりも高い状況。

現在、洋上風力において、着床式と浮体式洋上風力と 2 種類があり、今、議論されている。

日本の洋上風車については、ロードマップもない中で、撤退する企業も多い。

結論として、風力発電は、再生可能エネルギーのトップランナーであること。

地域との連携、コミュニティパワー、パナキュラーなデザインシビックプライドなど、地域との共発展を確実に進めることができる。そのためには、人材育成による雇用及び人口増加、地域の活性化が重要である。

・地域振興に基づいた再生可能エネルギー、そして、洋上風力発電を中心として、2050 年のカーボンニュートラルを達成へ

・地域振興の要になる：サプライチェーン形成に向けた設備投資へ

これにより雇用等もうまれる。60%は日本で、そのうち半分は秋田で！という地域振興の考えを。支えながら、新しい地域経済を回していこう。

【参考】

秋田：ブルーオーシャン、洋上風力

<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/79354>

ドイツのアート風車：風の妖精、影の形から石炭
海アート（空間演出研究所「そらのみなと」）

<https://joetsukankonavi.jp/umimachi1/>

パネルディスカッション

分科会 2

芸術文化がつくるまちの未来

パネリスト：八戸市 熊谷 雄一 市長

水戸市 高橋 靖 市長

金沢市 村山 卓 市長

オプションツアー：歴史と文化を生かしたまちづくり（城下町と新屋編）

所感：

まず、洋上風力の可能性を示唆され、つくることにより雇用等もうまれ、地域振興につながるということは、経済的な分野からも参入しやすい仕組みだと思います。支えながら、新しい地域経済を回していこうという考えが、これら洋上風力に限らず、再生可能エネルギーの可能性を期待し、地域循環的な仕組みづくりが生まれることを期待したいと思います。

その後の分科会、文化芸術を生かしたまちづくりでは、平田オリザさんが「子育て世帯は、ただ雇用があるからうつるのではない。戻ってくるのは、保育・幼稚園等もあるが、図書館における絵本の充実などはとても大切。スポーツも含めた文化政策が整っていないと若い世代は魅力と感ぜない」とおっしゃっていました。「孤立させない社会づくりが大事。」という言葉は大変、印象的でした。今は、地縁・血縁が弱っている状況のなか、孤立しやすい状況になっています。その結果、高齢者の孤立死、闇バイト（止めてくれる人がいない）等の問題があります。これらの中で、施設やまちの中に、そういう子どもたちのスペース等をどのように作っていくかが大切であり、今、実践されている豊岡市にも一度、伺ってみたいと思いました。また、藤さんの「完成したものを文化芸術ではなく、何かを作ろうとする態度そのものが、巻き込まれていく。その時間を大切にすること、アートマネジメントとして重要だと考えている。」「芸術文化とは生き延びるために必要ではないか。」ということとは非常に共感をするものでした。実際、秋田駅から会場間においては、美術館やオープンスペース等、芸術に触れることのできるさまざまな仕掛けが面白いものでした。

八戸市の活動と交流が生まれるまち「八戸ポータルミュージアムはっち」という複合施設や水戸市の水戸芸術館、金沢21世紀美術館などで有名な金沢市は、伝統工芸の担い手に関することだけでなく、「金沢芸術村」という24時間市民等が練習できる場所を公として整備されているというのは、ものすごく興味深く、メイシアターのすいたアートをそんな空間にできないかと思いました。これら、一度、視察に伺いたいと思いました。

中核市になったことで担う事務事業は増えている状況で、職員の体制も含めて課題は多いところですが、他市のこのような対応を活かして、吹田市においても自治体として、風力発電は難しくても、それに見合った再生可能エネルギーやそれらの自治体と連携支援をする仕組み、また、メイシアターをはじめとした市民の活力が溢れる芸術に触れる機会を公として作っていくことについて、取り入れられる環境政策・文化政策を引き続き提言していきたいと思います。以下、サミット宣言を参考に添付します。

なお、オプションツアーは、ガラス工房体験とねぶり流し展は、いわゆるねぶた祭りが再現されており、前日の夜に実施されたものも併せて、迫力と地域の方々のプライドを感じました。子供用もあり、子供にとっては、この祭りに出ることが楽しみであり、多世代の活動となっており、これらの交流は、地域力の高さにつながることから、伝統的な祭りはあらためて大切なコミュニティ形成の文化を残していくのだろうと思いました。

中核市サミット 秋田 宣言 2024

中核市は、地域の中核都市として、地方分権の推進と地域の発展に大きな役割を果たしてきました。

人口減少・少子高齢化の進行や世界的な異常気象など、時代の大きな転換期を迎える中、私たち中核市は、将来にわたって持続可能なまちづくりに向けて、長く受け継がれてきた文化や歴史といった地域固有の資源に光を当て、まちの個性を磨き、未来を力強く生きていくことが求められています。

本サミットでは、「これからをつくる、これからを生きる～中核市が創る「ひと・まち・くらし」の未来～」をテーマに、「再生可能エネルギーが創るまちの未来」「芸術文化が創るまちの未来」に焦点を置いて議論を行い、次のとおり、全国の中核市が連携して取り組むこととしました。

- 1 世界的に気候変動対策の取組が急がれる中、私たち中核市は、ゼロカーボンシティの実現とともに、エネルギーの地産地活を進め、新たな産業や雇用の創出など経済と環境の好循環を生み出すことにより、「再生可能エネルギーが創るまちの未来」を目指してまいります。
- 2 地域の特色を生かした芸術文化の振興が求められる中、私たち中核市は、地域の歴史や文化を生かした芸術文化活動の推進を通じて、地域資源を掘り下げ、市民とともにまちの魅力を再発見し、新しい文化や価値の創造に取り組むことにより、「芸術文化が創るまちの未来」を目指してまいります。

中核市62市の人口は約2,249万人となり、全国における存在感と地方自治の理念の実現に向けた中核市の責任は、今後もより一層大きくなっていきます。

私たち中核市は、これからの新しい社会をつくり、そして、これからをともに生き抜いていくため、寛容でしなやかな感性を持つ「ひと」を育み、溢れる創造力で「まち」の個性と魅力を磨き上げ、心豊かで希望に満ちた「くらし」の未来を創っていくことをここに宣言します。

令和6年10月31日

中核市市長一同

↑参考：サミット宣言